

49 回総会議事録

日 時：平成 20 年 6 月 14 日（土）12：45～13：45

場 所：共立女子大学一ツ橋キャンパス

出席者：正会員 100 名、委任状提出正会員 745 名

審議事項

- 第 1 号議案 平成 19 年度事業報告(案)の件
- 第 2 号議案 平成 19 年度収支決算書(案)の件
- 第 3 号議案 平成 20 年度監査報告(案)の件
- 第 4 号議案 平成 20 年度事業計画(案)の件
- 第 5 号議案 平成 20 年度収支予算(案)の件
- 第 6 号議案 名誉会員の推薦(案)の件
- 第 7 号議案 次期大会長(平成 21 年第 50 回記念大会)選任の件
- 第 8 号議案 次期大会長挨拶

表彰事項

- 第 1 人間工学会研究奨励賞の授与
- 第 2 大島正光賞の授与(該当なし)

大会会長挨拶： 間壁治子第 49 回大会会長から、準備段階の課題、今回の開催における一般公開シンポジウムに至った経緯、今回の大会講演の概要について紹介があった。

学会長挨拶： 斉藤会長から定期総会開催挨拶と日本人間工学会 49 回大会会長及びスタッフへの謝辞のあと、今回の大会の特別シンポジウムの一般への公開などの目玉となっている企画についての期待および日韓シンポジウムに言及する報告と挨拶があった。

司会者： 青木副会長司会のもとに、恒例により総会議長に斉藤会長を推薦し、会場の総意により議長に指名された。

司会者の指示により総務担当理事から第 49 回定期総会の定足数(人間工学会運営規則第 22 条:正会員の 1/5 以上～委任状含む)について、本日の総会の成立要件は、355 名以上となっているが、以下により本日の定足数は規定を充足してことを説明。

これを受けて司会者が本総会の成立を宣言。

(会員の現在数(平成 20 年 4 月 1 日現在)は、正会員数 1772 名・出席者数 100 名・委任状提出数 691 名で、都合出席者総数 745 名)

斉藤会長議長の下に以下の議事が進められた

議 題

I. 審議事項

第 1 号議案 平成 19 年度事業報告(案)の件

斎藤総務担当理事から、平成 20 年度総会資料に基き、平成 19 年度の事業活動実績を以下の諸活動組織ごとに報告し、審議のうえ原案通り承認された。

1. 会勢報告(会員の入退会等の会員異動状況)
2. 担当・委員会活動実績

- (1) 常設の委員会活動：広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159 国内対策委員会、表彰委員会の諸活動
 - (2) 常設の担当：日本学術会議担当、
 - (3) 臨時委員会活動：将来計画委員会、人間工学技術戦略委員会、支部・部会・大会担当、法人化担当の諸活動
3. 支部活動(7 支部)
- 北海道支部、東北支部、関東支部、東海支部、関西支部、中国・四国支部、九州支部の諸活動
4. 研究部会活動(12 部会)
- 航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海上人間工学研究部会、口と健康部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、人間融合ロボット分野アカデミックロードマップ研究部会、触覚インタラクション研究部会の諸活動。特に航空人間工学部会から看護人間研究部会については、5 年間の研究期限が到来したが、何れも新たな展望課題の本に活動の存続を図ることとされた。然し海上人間工学研究部会は、一応の活動目的・課題を果たしたなどから、今期を以って活動を了った。
5. 認定人間工学専門家部会
- 専門家資格認定試験、IEA の国際認証資格の認証を得ての記念講演会や新しく始まった準専門家制度の試験、更には専門家の再認定等の活動を実施。

第 2 号議案 平成 19 年度収支決算書(案)の件

垣本財務担当理事が、平成 19 年度総会資料の収支決算書(案)に基づき、運営制度の変更による収入減等が生じたが、支出の縮減とあいまって、収支バランスは取れたこと、さらに会員管理業務の外部委託による運営の無効率かの状況を説明し、原案通り承認された。

第 3 号議案 平成 19 年度監査報告の件

間壁監査から、平成 19 年度の業務運営とその処理及び収支会計の処理整理に関する監査結果について、適切・正確であることを認めるとの報告があり、間壁監査及び四宮監査連名の監査意見書が原案通り承認された。

第 4 号議案 平成 20 年度事業計画(案)の件

平成 20 年度の事業計画(案)の審議に先立つて、斉藤会長から平成 20 年度の重点業務、新たに取組むことになった業務に対応するための体制の確立を図るため、今年度の業務運営に当たる委員会／担当の新規分担について下記の説明があった。

主要な変更は以下のとおりである。

- ①総務担当に青木副会長が加わるが、これは来年度の第 50 回記念大会所掌対応である。
- ②広報委員長に吉武理事が就任。
- ③新設の企業の人材育成プログラム開発委員会の委員長に酒井理事が就任。
- ④人間工学技術戦略委員会の委員長代行に富田理事が就任。
- ⑤新設の人間

工学研究ガイドライン検討委員会の委員長に ISO/TC159 国内対策委員会の横井孝志氏が就任された。(総会資料:「日本人間工学会第 17 期(2007 年 4 月～2010 年 3 月)の活動目標について」及び「日本人間工学会 2008 年度 委員会/担当一覧」参照)

また、このほか研究部会とは、異なるが研究部会の横断的な研究大会となっていた「システム大会」の世話人に富田理事が就任し、研究活動として位置づけが明示されることになった。

次いで 4 号議案の審議に入り、総務担当の斎藤真理事が、平成 20 年度総会資料に基づき、平成 20 年度における事業計画(案)を下記の活動組織ごとに説明し、審議の結果原案通り承認された。

1. 委員会・担当活動計画

(1) 常設

広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159 国内対策委員会、表彰委員会、日本学術会議担当

(2) 臨時

・企業の人材育成プログラム開発委員会(新設)、人間工学技術戦略委員会、人間工学研究ガイドライン検討委員会(新設)、支部・部会・大会担当(新設)、法人化担当、

2. 支部活動計画(7 支部)

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州

3. 研究部会活動計画(11 部会と 1 研究大会)

口と健康部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、人間融合ロボット分野アカデミックロードマップ研究部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、システム大会(研究大会)

4. 認定人間工学専門部会

第 5 号議案 名誉会員の推薦の件

昨年度に名誉会員制度が制定され、今年度から実施されることになり、制度の運営細則手続きを経た 17 名の会員が名誉会員に推薦された。審議の結果原案通り名誉会員が認められた。(総会資料参照:名誉会員推薦者一覧。)

第 6 号議案 日本人間工学会第 50 回(平成 21 年)記念大会長の選任の件

第 50 回大会長には、内定していた独立行政法人 産業技術総合研究所 人間福祉医工学部門研究部門長の赤松幹之氏の就任が正式に承認された。

赤松会長から挨拶を兼ねて、第 50 回記念大会は、平成 21 年 6 月 10 日(水)～11 日(木)に茨城県つくば市の産業技術総合研究所つくばセンターを中心に開催すること及び大会の構想が説明された。

表彰事項

平成 20 年度の表彰は、表彰委員会阿久津委員長が表彰理由を説明した後、以下の論文及びその著者に対して授与された。

日本人間工学会奨励賞

平成 20 年度の受賞者 2 件であり、各受賞代表者の藤田徹也氏及び大谷光司氏に対して齊藤会長から賞状及び副賞が授与された。

- 1) 受賞者名は、藤田徹也、中嶋芳雄、高松衛の各氏、
論文名「液晶ディスプレイを用いた高齢者の色覚特性に関する研究」(人間工学 Vol. 43、No3)
- 2) 大谷光司、山崎信寿の各氏、
論文名「起立と着座が容易な自動車シートの開発」(人間工学 Vol. 43、No4)

大島正光賞

「大島正光賞」については、表彰委員会の審査において該当論文がなく、表彰は見送られた。

以上